

陸の水

==== No.96 ====

日本陸水学会東海支部会
ニュースレター（2023年3月30日）
発行：日本陸水学会東海支部会
連絡先：〒501-6021 岐阜県各務原市
川島笠田町官有地無番地
国立研究開発法人土木研究所
自然共生研究センター
松澤 優樹
Tel:0586-89-6036, Fax: 0586-89-6039
E-mail: matsuzawa-m573bs@pwri.go.jp

目次

- 2022年度「第25回研究発表会」の報告（p.1～3）
- 2022年度「第26回総会」の報告（p.4～9）
- 2023年度「研究助成」の募集案内（p.9～10）
- 社会貢献活動報告：御嶽ショートレターNo.7（p.11）
- 幹事退任・就任のあいさつ（p.12～13）
- お知らせ 会費納入（p.14）
- 編集後記（p.14）

2022年度「第25回研究発表会」の報告

大八木 英夫（南山大学総合政策学部）

日時：2023年2月18日（土）～19日（日）

場所：南山学園 伊勢海浜センター 三重県伊勢市大湊町497-1

2023年2月18日・19日と、三重県伊勢市の伊勢湾を望む海岸（大湊海岸）沿いにある、「南山学園 伊勢海浜センター」において、第26回総会・第25回研究発表会が実施されました。2020年2月より新型コロナウイルス感染症の流行による行動自粛のため、宿泊を伴う行事について、なかなか実施されてきませんでした。しかし、世界的にも感染の流行が収束に向かいつつあり、ようやく宿泊を伴いつつ、ざっくばらんで多様な意見交換をするため、従来で開催されていた、膝をつき合わせた場を提供できる時が帰ってきたものと思います。

今回は、感染症対策の一環のため施設によって定員制限がなされつつの募集ではあったが、24名の参加者が会場にお越しいただき、1日目（2月18日）で9件、2日目（2月19日）で8件の計17件の演題で行われました。また、オンラインでのご参加も頂きました。水をテーマにしつつも、マイクロプラスチックから森林、温泉など多様な発表ばかりで、水にはいろいろな視点があるのだと、改めて気づかされ、聴衆も楽しめたのではないのでしょうか。学生発表賞についても実施され、投票の結果、最優秀賞は鈴木隆太郎さん（静岡大学）「藻類の生産システム」、優秀賞は武頼さん（名古屋大学）「五山僧と温泉」となりました。

鈴木隆太郎さんの発表は、微細藻類が数～数百 μm サイズの単細胞藻類であり、高等植

物よりも効率よく増殖することから、農業が困難な地域でも生産可能な食糧源として注目されたものでした。特に、微細藻類の大量生産についての問題を指摘しつつ、細胞の定量化に向けてのご発表でした。

武頼さんの発表は、現在の温泉地が『風土記』や『日本書紀』などの史書からも見られ、中世には、湯治も公家、武家、僧侶などの階層にも利用されていたことから、中世五山僧ら関連記録から、悟道活動との関連について整理されました。特に、景徐周麟という一禅僧の湯治を中心に上げられ、五山僧の温泉入浴の事情及び湯治を巡る彼らの文学活動についてもまとめられたご発表でした。

今回は、研究会としての巡検は実施されませんでした。早朝に、町散策を致しました。伊勢市大湊町は、伊勢湾に面しており、宮川と五十鈴川の河口に挟まれた三角州で、過去に何度も、南海トラフを震源とする地震で津波に見舞われてきた場所でもあります。町を歩けば津波被害の歴史を伝えるものもあり、津波から避難する場所が設けられており、散歩の目的の1つは、その津波避難タワーを見学です。

そこで、流行の(?) ChatGPT にズバリ聞いてみました(聞いてみたのは、会開催後日、2023年3月14日)。

Q (大八木): 伊勢市大湊町には、津波避難タワーはありますか?

A (ChatGPT): 伊勢市大湊町には、津波避難タワーがあります。大湊町には、2013年に完成した高さ21.5メートルの「大湊町津波避難タワー」があります。このタワーは、地震や津波の発生時には、地域住民が避難するための安全な場所として活用されています。

実は、南山大学紀要論文には「2015年3月に津波避難タワーが完成した」¹⁾と記載があります。会場は当学園の施設であり、当大学総合政策学部の教員・学生もいろいろと活用している中で調べられた報告・論文ですので、上記回答の「2013年に完成」については、論文が確かならば、どこから出てきたのだろうか?と疑問を持ちました。また、「完成したタワーは鉄筋コンクリート2階建てで、避難スペースとなる1階は地面から9.0m(標高10m)、2階は12.2m、屋上までは15.55mの高さとなっている。」と文中にもあります……。詳しくは、本文(下記参照)をご覧ください。ChatGPTの回答は、最も「らしい」のですが……。いろいろと検証の余地ありですね(お気づきの方もおられると思いますが)。

ネガティブな要素でも、ポジティブな要素でも、今後、AIの導入は広がっていくでしょう。また、それを見極める目が必要となってきますね。災害については、正確な情報を入手したいものです。津波避難タワーについては、会場へ入りの道中、参加者の何人もが目にしており、災害対策についてもいろいろと考える機会となった、総会・発表研究会となりました。2023年度は、もっと活動量が戻ってくることを期待しつつ、皆様におかれましても、会を盛り上げていただきたいと思います。

1) 大橋由美・藤本 潔 (2016): 避難困難地域における津波避難施設整備の現状と課題—三重県伊勢市大湊地区を事例に—。アカデミア(人文・自然科学編)、南山大学、11、105-116. <https://iss.ndl.go.jp/books/R000000004-I027137179-00>
【避難困難地域における津波避難施設整備の現状と課題】でご検索ください。



写真 1 2日目の参加者で記念撮影



写真 2 話題の(?)伊勢市大湊町に建設された津波避難タワー

2022年度「第26回総会」の報告

日時：2023年2月18日（土）

方法：南山大学 伊勢海浜センターでの対面およびZoom オンライン

総会之次第

1. 開会・会長挨拶： 山本会長
2. 議長選出
3. 報告事項

1) 2022年度活動報告：大八木事業担当

2022年度の主な活動は以下の表のとおりであった。

活動項目	当初計画	実施状況
ニュースレター 発行	年間3号	2022年3月（No.93）、8月（No.94）、2023年1月（No.95）に発行。2023年3月にNo.96を発行予定。
サマースクール	夏1回実施	前年に続き中止。次年に再度予定。
談話会	年2回実施	<p>■ 第40回談話会 7/25（月） 18:00～20:00 萱場祐一：「川づくり、今までとこれから 一流域治水は進むのか？」※場所：椋山女学園大学 （陸の水 No. 94 に報告）</p> <p>■ 第41回談話会 12/9（金） 18:00～20:00 小野田幸生：異なる場所での様々な研究スタイル ※場所：椋山女学園大学 （陸の水 No. 95 に報告）</p> <p>第40, 41回：土木学会継続教育（CPD）制度（1.9単位）認証</p>
見学会	年2回実施	丘陵地の小川・湿地・池の観察会・見学会（た

		め池の自然研究会と共同開催) 9月3日(土) 6名参加 矢作川ほかのアユの産卵の観察会(10月下旬～11月上旬) 条件が合わず中止
市民講座	年1回実施	椋山小学校湧水ビオトープ(生き物採取、水質分析、講義) COVID19の影響により中止
助成金	総額5万円以内で3件まで	2件の応募。厳正な審査の結果、今回は2件に対し総額10万円の助成を行うことに決定。
広報・学会公式HP		http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/ に開設。活動状況・予定など随時更新中。 Facebookによる広報は試験運用中。MLは運用中。
総会・研究発表会	2月に実施	2023年2月18日に実施(南山大学 伊勢海浜センターとZoomオンラインの併用)。 ※前回研究発表会のプログラム・要旨をweb公開。
論文集販売		バックナンバーを1冊2,000円で頒布 (2022年は0冊)。
教科書販売		定価2,600円を15%割引で販売 (2022年は14冊)
学生表彰 (優秀発表賞)		研究発表会終了後に表彰予定(最優秀1名を予定, 対象者4組)。 ※前回研究発表会(対象者6名)では、最優秀発表賞1名、優秀発表賞1名を表彰, 前々回研究発表会(対象者15名)では、最優秀発表賞1名、優秀発表賞2名を表彰。
幹事会の開催		幹事会の会合: 2回、メール会議: 適宜
社会貢献活動		地域貢献: 第5回御嶽山火山研究施設懇談会にて活動報告を実施。 広域連携: 諏訪湖の第8期水質保全計画案に対して意見提出

2) 2022 年度会計報告：宇佐見会計担当

2022 年度予算決算書（2022.01.01～2022.12.31）

[収入]

費目	2022年度予算	2022年度決算	備考
前年度繰り越し金	693,892	693,892	
会費収入	135,000	129,000	一般2000円、学生1000円、家族3000円、団体4000円 (過年度分12,000円、2022年度分95,000円、前受分22,000円)
雑収入	870,000	146,092	身近な水の環境科学(第2版)販売(14冊15%off)：34,034円 朝倉書店印税(身近な水の環境科学(第2版))600部：112,058円
寄付金	0	2,000	寄付1件
利子	1	6	
総計	1,698,893	970,990	

[支出]

費目	2022年度予算	2022年度決算	備考
郵送料	1,000	420	庶務・会計に係る通信費
ニュースレター発行費	0	0	ニュースレター陸の水の送料(封筒、切手)
事業費	150,000	100,000	助成金2件(50,000円/件)
広報費	25,000	23,238	インターネット、土木学会継続教育(CPD)制度プログラム2回
論文集発行費	800,000	0	論文集印刷代、会員等への郵送料
雑費	10,000	113,358	振込み手数料1,300円、書籍(身近な水の環境科学(第2版))100冊購入 (100冊：243,100円のうち印税分(112,058円)で代金清算。残りは2023年夏に支払予定(朝倉書店の連絡より))。
予備費	712,893	0	幹事交通費等
総計	1,698,893	237,016	次年度繰越金733,974円

追記：2月18日(土)の総会での会計報告にて、あった「2022年の会員の入会退会の状況は？」との質問の回答について

2022年度(1/1-12/31)入会8名、退会1名

2022年12月31日時点での会員数68(一般64、学生2、家族1、団体1)

3) 2022 年度会計監査報告：内田会計監査

適切に会計処理が行われていることを確認した旨、内田会計監査の代理(松本嘉孝会員)から説明があった。

4) 論文集 2021/2022 年：野崎編集委員長

4月初旬の発行予定で進めている。会員には冊子として配布する。投稿および審査状況は以下のとおりである。

R2021/22-01(報告)：2021年6月23日受理 支部会 web site で公開済み。

R2021/22-02（報告）：2021年6月24日受理 初校作成中
R2021/22-03（原著論文）：2021年11月29日受付 審査中
R2021/22-04（原著論文）：2022年12月9日受理 初校作成中
R2021/22-05（報告）：2023年1月6日受理 初校作成中
R2021/22-06（意見）：2022年10月12日受付 審査中
R2021/22-06（報告）：2022年11月30日受付 審査中

4. 審議事項

1) 2023年度年度事業計画：大八木事業担当

2023年度の事業計画が説明され、了承された。

2023年度事業計画

1. 陸の水第12論文集（No.97）の発行（2023年度として）
2. ニュースレター「陸の水」の発行：年間3号
7月（No.98）、12月（No.99）、3月（No.100）
3. サマースクールの開催（8月）
岐阜県水産試験場にて開催予定
4. 談話会の開催：年間2回（時期未定）
※土木学会継続教育（CPD）制度のプログラム（2.0単位あるいは1.5単位）として実施
予定。実施方法は状況に合わせる。
5. 見学会の開催：年間2回
 - ・場所，時期未定
 - ・矢作川ほかのアユの産卵の観察会（10月下旬～11月上旬）
6. 市民講座の開催：年1回
 - ・椋山小学校湧水ビオトープ（生き物採取、水質分析、講義）
7. 総会・研究発表会の開催（2月）
8. 一般研究助成（原則2件、助成総額10万円以内。一件当たりの上限は5万円まで）
9. 学生発表賞の授与（研究発表会にて優秀発表者を表彰）
10. 活動報告（HPの更新、ML・研究発表会の要旨の公開）

11. 「陸の水」論文集・教科書販売：

※論文集は 2000 円、

※教科書『身近な水の環境科学 第 2 版』は定価 2,600 円（税別）

12. 社会貢献

※2015 年度から実施してきた「御嶽山噴火影響調査」は“地域”活動として継続

※2019 年度から、他地域の陸水環境に関する研究と連携し展開する“広域連携”を創設

13. 幹事会の開催

2) 次期役員・幹事案：山本会長

資料に従い役員・幹事案が説明され、了承された。

なお、総会時に未定であった会計担当については、豊田高専 松本が担当することとなった。

次期役員・幹事

会長	松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校）	転任 8/留年 0
副会長	椿 涼太（名古屋大学）	転任 5/留年 0
庶務担当	須田 ひろ実（株式会社ニック環境システム）	留任 8
会計担当	松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校）	転任 8/留年 0
事業担当	大八木 英夫（南山大学） 年会・総会（大八木英） 談話会 2 回（江端） 見学会 2 回（山本，未定） 市民講座 1 回（野崎，松本） （サマースクール）（大八木英）	留年 3
社会貢献(地域)	江端 一徳（豊田工業高等専門学校）	留年 3
社会貢献(広域連携)	井上 祥一郎（株式会社名邦テクノ）	転任 8/留年 5
陸の水担当	松澤 優樹（土木研究所）	留任 4
助成金担当	江端 一徳（豊田工業高等専門学校）	留年 1
広報 HP 担当	白金 晶子（矢作川研究所）	新任 0
会計監査	内田 臣一（愛知工業大学）	転任 7/留年 3
論文集編集委員長	野崎 健太郎（椋山女学園大学）	留任 9

3) 2023年度予算案：宇佐見会計担当

資料に従い予算案が説明され、了承された。

[収入]

費目	2023年度予算	備考
前年度繰り越し金	733,974	
当年度会費収入	108,000	会員 一般64、学生2、家族1、団体1 = 137,000円 [※] /年 ※2023年度会費の前受(13会員：29,000円)により、137,000-29,000=108,000円 (備考：4会員から2024年以降の会費前受：26,000円)
過年度分会費収入	31,000	前年度までの会費徴収
雑収入	870,000	論文集・教科書販売(30,000円)、印税(40,000円)、論文集掲載料等(掲載料、超過頁料、カラー印刷料等：800,000円)
寄付金	0	
その他	3	利子
総計	1,742,977	

[支出]

費目	2023年度予算	備考
郵送料	2,000	庶務・会計に係る通信費
ニュースレター発行費	0	ニュースレター陸の水の印刷費、送料(封筒、切手)
事業費	300,000	総会等補助、研究助成(2件)、談話会等の講師謝礼、社会貢献、 書籍(身近な水の環境科学(第2版))を2022年に100冊購入、残り金額支払(131,042円)。 (↑書籍100冊：243,100円のうち112,058円は2022年に済み。)
広報費	25,000	インターネット、土木学会継続教育(CPD)制度プログラム(2回)
論文集発行費	800,000	論文集印刷代等、送料
雑費	10,000	振込み手数料など
その他	605,977	次回の論文集発行の積立、幹事会交通費等
総計	1,742,977	

2023年度「研究助成」の募集案内

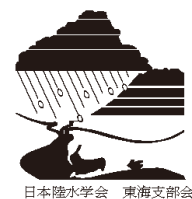
次年度の研究助成を引き続き募集しております。水辺環境を対象とした、生物・化学・地学・社会・地理・歴史・環境その他あらゆる探求の取り組みに対して助成を行います。会員以外の方も応募可能ですので、周囲の方々にも周知して頂けると幸いです。

問合せ先：日本陸水学会東海支部会（研究助成担当）

江端 一徳（豊田工業高等専門学校）（ebata@toyota-ct.ac.jp）

アマチュア・若手研究者への調査・研究の奨励

2023年度 日本陸水学会 東海支部会



小学、中学、高校の部活動などからの応募を優先して採択します

研究助成募集

趣旨 日本陸水学会東海支部会では、「水辺環境を対象とした、生物・化学・地学・社会・地理・歴史・環境その他のあらゆる探求の取り組み」に対してアマチュア・若手研究者の調査・研究を奨励するために、以下のような研究助成を行います

助成対象となる調査・研究の分野

陸水環境を対象とした自然科学・人文社会科学・環境教育の実践および教材研究など

募集対象者 アマチュア・若手研究者および研究グループなど

助成金額 申請上限5万円で2件の助成を行います

※5万円分の予算まで申請可能ですが、申請内容に応じて減額して支給する場合があります

被助成者の義務 調査・研究は年度内に終了し、その後1年以内に、当支部会研究発表会あるいは、支部会ニュースレター誌上での成果公表をしていただきます

応募方法 以下の項目を含んだ申請書類(A4版、手書き可、当支部会様式使用可)を作成してください

- 1) 研究題目、およびキーワード
 - 2) 申請者(個人の氏名、またはグループ名)と連絡先
 - 3) 調査・研究課題の内容(1000-1200字程度)
 - 4) 助成金の支出予算案(項目ごとに千円単位で)
例:用品費(備品、消耗品)、調査費(成果発表のための学会・研究会参加旅費を含めても構いませんが、調査費以外は申請総額の1/2を超えないようにしてください)、謝金(アルバイト代)など。*謝金については妥当性のないものは認められません
 - 5) 申請代表者の連絡先(電子メール希望の場合はアドレス) 明記のこと
- ※様式は、 <http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/> からダウンロードできます

【注意】

- ・大学、研究機関に所属していない個人・グループ(小中高校の関係者など)を優先します
- ・大学、研究機関に所属する研究者、学生も応募できます
- ・大学(院)生の方は、卒業研究、修士・博士研究の一部内容について申請しても構いません
- ・営利を目的とする調査・研究に対しては助成を行いません
- ・当支部会員でなくても応募できます
- ・応募、採択の機会に、ぜひ当支部会への入会をお願いします

応募締切 2023/5/26(金)、(郵送の場合は消印有効)

※下記まで郵送または電子メールでお申し込みください。

応募・問い合わせ先

日本陸水学会 東海支部会(研究助成担当)

〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1

豊田工業高等専門学校 環境都市工学科 江端一徳(宛)

E-mail: ebata@toyota-ct.ac.jp

社会貢献活動報告：御嶽ショートレターNo.10

「雪、ユキ難し」

豊田工業高等専門学校・環境都市工学科 江端一徳

今回は冬の御嶽調査についてお話しします。

私は、2022年12月25日、26日と調査へ行ってきました。前日24日は、クリスマス寒波が到来！ということで、愛知県の名古屋市でも10cmの積雪がありました。その日は、軒並み、高速道路が通行止めとなっており、明日の調査はどうなるかなあとヤキモキした気持ちで過ごしていました。幸い、翌25日は、降雪もなく、高速道路も通行止めは解除されており、無事に調査地に乗り込むことができました。

今回の調査では、王滝川支川の水質測定と流量観測を実施しました。特に、濁川へは、普段なら、悪路ではありますが、車を使ってアクセスします。ただ、今回は、道路が除雪されていないためスノーシューを使って、歩いての行軍となりました。積雪も2、30cmほどはあったでしょうか。雪のため一步を踏み出すのがとても大変で、前進するだけでもやっとなりました（写真1）。普段の暮らしでは気にも留めない一步ですが、一步のありがたみを切に感じる調査となりました。そして、調査ポイントへやっとの思いで到着し、そこから支川へ行く道中も、岩の上に積もった雪で足を取られることも多く（写真2）、また、山側から吹き付ける風に耐えながら支川へと歩を進めました。そのような苦労もありながら、無事に支川へ到着し、水質測定や流量観測を実施できました。

こうして、幾度となく苦難があった2日間の御嶽調査を終えました。ただ、この苦難を乗り越えて得られたデータは、研究者冥利に尽きるのかなあとと思います。自然が相手なので、まだ誰も知らないこと、誰もやりたがらないことにチャレンジすることは知的好奇心をくすぐられます。

ここまで終始、調査のお話となりましたが、冬の御嶽山は、スキーで賑わいます。機会があればぜひ王滝村へお越しいただき Enjoy してください。くれぐれも、ご安全に！



写真1 濁川へ至る歩道



写真2 濁川（濁沢川と伝上川合流後）

幹事退任・新幹事就任のあいさつ

会長退任のあいさつ

山本 敏哉

2年間にわたり、大変お世話になりました。東海支部会でも活動が大変に抑制された期間でしたが、その分総会や見学会などのリアルの場で会員のみなさまと交流できたことは鮮烈な思い出となりました。役員・幹事の方には運営面で支えていただきありがとうございました。

私事ではございますが、昨年はサラリーマンを退職して個人事業主として独立しました。分野は陸水学とは全く異なり、再生可能エネルギーと不動産関連の事業で食べていくことにしました。昨年は初任給レベルの収入を得るのに四苦八苦しておりましたが、いろいろなリスクを管理し、経験を積んで自分で仕事のやりがいと収入を確保していくことの醍醐味も感じ始めております。当面は生活できる基盤を確保するのが先決ですが、その上で自然誌的な研究を自由におこなえるステージに立てることを夢見て、いまは空いた時間で耳学問に励んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

会長就任のあいさつ

松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校 環境都市工学科）

今期より会長に就任いたしました。東海支部とのお付き合いは、2005年に豊田高専に就職した数年後に、矢作川研究所が主催する矢作川学校ミニシンポジウムで、野崎健太郎さんに声を掛けていただいたのがきっかけだったと記憶しています。その後、学会へ入会し、あれよあれよという間に、沼にはまったように係らせていただいています。

入会当初は陸水分野への門外漢意識が強く（同じ陸水の水質研究をしていたにもかかわらず…）、ある程度の距離をとりながら、様々な行事に参加したり、幹事を務めさせていただきました。その意識の源は何だったかを振り返ると、自分の専門的な立場を維持するための、自己防衛ではなかったかと思えます。そんな状況ですと、学会へ参加はしているものの、活動への共感が生まれることは少なく、フワッとした心持ちでいました。その後、教科書の執筆、御嶽山などでの共同研究で、「連帯と共助の大切さ」を学会の中で学ばせていただきました。

ここで、本ニュースレターの「第26回総会・第25回研究発表会の報告」にて、大八木幹事も Chat GPT などの AI 技術についての記述がありますが、今後、生活、産業、学術面などでは様々なインフォマテクスが活用される時代が到来すると思われ、研究様式や人との交流様式も大きく変わります。しかし、この学会に所属している皆さんは、デジタルとは相対する、こちら本ニュースレターの「御嶽ショートレター 雪、ユキ難し」にて江端幹事が寄稿しているような、現地調査を敬遠しない方が多いと思います。

時代は大きなうねりと共に、様々な分野でカタストロフィーが起こる予感がしています。そのような中でも私が以前学会で学ばせていただいた、学会員同士の共感力を大切に、現地の人文・自然科学を核においた学会活動の維持と発展を在任中は進め

られればと思っています。COVID19の影響も小さくなってきました。感染症等への注意はしつつ、進化した学会活動を行いたく思いますので、幹事のみならず、学会員の方々についても、学会活動への参加、協力どうかよろしくおねがいたします。

会計担当退任のあいさつ

宇佐見 亜希子（名古屋大学 減災連携研究センター）

2019年から4年間幹事（会計担当）をさせていただきました。このような幹事仕事は初めてのことでしたのでとても不安でしたが、みなさまのお力添えでなんとか勤め上げることができました。ありがとうございました。

この支部会は座学だけでなく野外での学びなど様々な企画があり、私の年行事の楽しみの一つになっています。このような企画実現のために幹事の方々のご尽力される姿を間近で見て体感し、とても良い経験となりました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

広報 HP 担当退任のあいさつ

吉成 暁（いであ株式会社 環境創造研究所）

2017年より広報（HP）管理を担当させていただきました。

幹事会への参加がほとんどできなかつたこと、またご連絡をいただいてからHP更新までの対応が遅いなど、ご不便をおかけしたことをご容赦頂ければと思います。

私が本会で最も楽しみにしているのが、2月に行われている研究発表会への参加です。若い皆さんの新しい視点での研究、支部会を支えてこられた往年の先生方の熟成された研究を拝聴することで刺激を受けますし、また夜に酒を交わしながら意見交換をするのも楽しみでした。最近の仕事上の都合で研究発表会に参加できず、残念な思いをしておりますが、タイミングが合えばまた参加させて頂こうと思っております。

今後ともよろしくお願いいたします。

広報 HP 担当就任のあいさつ

白金 晶子（豊田市 矢作川研究所）

今年度より再び、広報（HP管理）担当幹事を務めさせて頂くことになりました。前回は拝命当初から新しいHPの立ち上げを目指していましたが、なかなか実行できず、退任間際に何とか立ち上げにこぎ着けました。HPには東海支部会が1998年に発足して以降のニュースレターを保管されていた元名古屋女子大学の石田典子先生よりデータをいただき、すべてのニュースレターを掲載することができました。お時間のある時にぜひ東海支部会の四半世紀の歩みをご覧ください。

あれから7年間の長きにわたり、吉成前幹事にご担当頂き、HPが運用され、充実してきているのはうれしい限りです。今後も会員のみならず、そして会員以外のみならずにも東海支部会の活動を広く知って頂けるようにHPの環境を整えていきたいと思っておりますので、ご意見、ご要望などお寄せください。よろしくお願いいたします。

お知らせ 会費納入について

納入方法として、下記「ゆうちょ銀行」への振込、もしくは談話会や研究発表会などでの直接的なお支払いも受け付けております。会費納入状況が不明な場合は事務局までご照会ください。2年度分の会費が未納の方は、規約に従い、翌年度には自動的に退会となりますのでご承知おきください。その際も、未納会費2年分のお支払いをお願いしております。

論文集については、納入が確認できた会員のみ、送付することが総会で承認されています。会員数の減少に伴い論文集発行の予算確保も難しい状況となっております。毎年度の送付が滞り大変申し訳ありませんが、会員の皆様にも現状にご理解頂き、確実な会費の納入をお願いいたします。退会をご希望の方は、日本陸水学会東海支部会事務局のE-mailアドレスまでご連絡ください。

日本陸水学会東海支部会事務局

E-mail: rikusui-tokai@rikusui-tokai.sakura.ne.jp

<年会費>

一般 2,000 円, 学生 (大学生以上) 1,000 円, 高校生以下は無料,
団体 4,000 円, 家族 3,000 円

<ゆうちょ銀行からお振込みの場合>

記号: 12120-2 番号: 73385891

名前: 日本陸水学会東海支部会

<他の金融機関からお振込みの場合>

銀行名: ゆうちょ銀行

店名: 二一八 (読み ニイチハチ) 店番: 218

預金種目: 普通預金 口座番号: 7338589

カナ氏名 (受取人名): ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

(編集後記)

今年も総会・研究発表会が無事終了しました。運営や準備を進めていただいた幹事や参加者の皆様、誠にありがとうございました。今年はコロナも落ち着いてきて久しぶりの宿泊を伴うイベントが実施できました。今回の会場は伊勢湾の海岸沿いにある、南山学園の伊勢海浜センターが会場ということで、早朝の散策はとても気持ち良かったのではないのでしょうか。また、海沿いということで、釣り好きな私にとってはとても気になる場所での開催でした。しかし、残念なことに今回の研究発表会は参加できませんでしたが、来年度以降、研究者としてパワーアップした姿を見せられるように研究を進めていきたいと思っております。また来年こそは皆様と総会・研究発表会で会えることを楽しみにしております。

(自然共生研究センター 松澤優樹)